



はじめに皆さんに言っておきたいことがある。私は以下のことがこのような試験に挑戦する際にも、普段の仕事でも、また、生きていく上でも重要だと思っている。

MDC (Motivation Dedication Consistency)

- Motivation : 言うまでもなくモチベーション
- Dedication : 献身とでも訳せばいいだろうか
- Consistency : 持続すること

これからはエムディシーを重視する時代である。苦しい時には是非、思い出して心の支えにして欲しい。

お詫び今回の出張にデジカメを持っていくのを忘れました。

< 4月13日(火) >

21:00 成田発で出発予定であるのはいつものことであるが、例によってなぜか前日は福岡出張である。しかもシスコとの打ち合わせの開始時間が 21:00 である。とほほ。

同僚がシスコの人間に情報を仕込んだらしく、シスコの T 氏が

「兵頭さん、いいところに出張に行くらしいですね。」

などと言われてしまった。全く。。

ただの出張だよ！

何も良くねえよ。

ガレージ兵頭の賢明なる読者であればそのようなお遊び気分が少しも無いことはわかって頂けるであろう。

打ち合わせが終わって会社に戻った時点で 23:00 である。そこから持っていくドキュメントの整理などをやっていたらあっという間に日が変わってしまった。

明日は 5:30 の高速バスに乗らなくてはならないので、4:30 起きの予定だ。家に帰り着いたのが 01:30。飯食って、風呂上がったら 02:30 だ。寝るヒマ無いよ、全く。

寝ずに勉強することにして、朝一番の便で東京本社に戻った。例によって営業の S さんなどが

「あ、久しぶりですね」

などとからかってきやがるのは当然として、最近是他の方々からも同じことを言われるようになってしまった。いかん。。もっと東京の仕事をしなければ。。

本社に置いていた書籍やドキュメントをカバンに詰め込もうとするが、入りきれない。さらに今回は PIX を現地に持ち込む予定である。いまいち PIX のコマンドを全て覚えきれていないため、滑らかに打ち込むことができないのだ。実際のフィールドではそれで問題はないが、CCIE 試験では滑らかに打ち込めないことがどれほどのマイナスになるかわかっているため、最後の最後までホテルで悪あがきをするために持ち込むのである。

会社の規定では 3 回までの受験しか許されていないが、前回、3 回目に不合格になっている。私は決して駆け引きする気があったわけではなく、心から

「サラリーマンである以上、試験に失敗したわけですから、これからは自費で挑戦します。気になさらないください。」

と事業部長に言ったのだが、

「気にするな」

とのこと。但し、二言目には

「通ってください」

とくるから困ったものだ。

何度も海外受験に不合格になって、夜も土日も全て勉強に費やしている。5 月に迫っているレースも当然出場する気もない。この CCIE という試験は基本的には不合格になるのが当たり前の試験である。合

格することが難しいのだが、受験したことの無い人にはわからないだろう。

ちなみに、再度挑戦させてもらう代わりに

「貴職には CCIE_VOICE も合格してもらいます。」

というおまけまでもらってしまった。まあ、元々挑戦する気だったのだが、休みヒマなく次の試験に取り掛からねばならず、それはそれで大変である。

現時点でも睡眠不足の頂点で、普段は交通機関で居眠りなどしない私だが、最近は移動中に爆睡するようになってしまった。

ところで、CCIE 試験については、前回の出張記でもご参照ください。何度もカットアンドペーストするのはやめました。

いったん、自宅マンションに戻ってスーツケースに荷物をまとめていくが、相変わらず重い。但し、今回はシドニーは秋くらいなので日本の春と天候的にさほど変わらない。着るものに苦労しない分かなり楽である。

今回は自宅まで乗合タクシーに迎えに来てもらった。幸いにも乗客は私ひとりということで、乗合料金で豪遊できる広さである。出張旅費として手出しになる分(約 2000 円?)はあるが、全然 OK である。乗り換えしなくていいし、自宅まで迎えに来るのだから。

乗客がひとりだからなのか、運転手のおっさんは積極的に話しかけてくる。ゆっくり寝ようと思っていた私は仕方なく話しにつきあっていたが、いかんせん眠い。おっさんの話しが途切れた時を狙って寝ようとするが、おっさんもなかなか切れ者で、寝るスキを与えてくれない。このおっさん、なかなかやるな。。。

が、限界は限界なので、いつの間にか寝てしまっていたようである。天井からなぜか明るいスポットライトを浴びている夢を見て、何だか現実と夢の境がわからなくなったところで、

「運転手さん、スポットライトを消してから打ち合わせを開始しましょう。」

と、言いかけたところで夢だと気がついた。もちろん乗合タクシーにはスポットライトなど無いし、運転手さんと打ち合わせする要件もない。危ねえ~。

大笑いされるところである。そんな失言をしようものなら、おっさんは仲間うちに

「今日のバカな客がさあ、スポットライトを消せだつよ。全くバカだよなあ。がはは。。。」

くらいに大笑いされているはずである。

ほどなく、成田到着。気のせいかな、いつもより寂しい気がする。海外情勢の悪化が原因だろうか？

私は JAL のグローバルクラブ会員なので「Seasons」と書いている、ファーストクラス専用カウンターでチェックインできる。しかも今回は自費にてビジネスクラスにアップグレードである。チェックインは実にスムーズ。あっという間に終了だ。

前回、勝負事にこだわる私は「勝負に勝つ」ということでカツカレーを食べて見事に失敗している。(それが失敗の原因か？)

そこでいまいちど原点に戻り、Routing&Switcting に合格した時にマックを食べたことを思い出して、貧乏くさくマックを頼張ることにした。機内食がすぐに出るので本当は食べなくてもいいのだが、こういう事には異様にこだわる性格なのである。

ちなみに勝負事の前の儀式である「散髪」は一週間前に済ませたのでそれでよしとしよう。

出発まで2時間くらいはあるのでグローバル専用ラウンジで勉強する。いつもはDゲートからの出発で、変なモノレールみたいな列車に乗ってターミナルを渡る必要があるのだが、今回はBゲートということで、出国手続き後のすぐのゲートからの出発のようだ。ラウンジも違うラウンジに入ったが、まあ、同じ感じである。



ラウンジには LAN のポートも準備されている。ふむふむ。このポートは DHCP か何かでアドレス取得ができて、ダイレクトにインターネットに出れるのであろうか？

ラウンジのねえちゃんに訊いてみたが要領を得ない。説明書を渡されてしまったが、どうも思惑と違うようで、Web で認証をしてそこから Web だけ外部に出るようである。こんな設定、オレに任せたら5分でやってしまうぞ。そういう試験を今、受けているのだから。弊社に仕事をくれ。今度、ご提案に伺います。

何気なく技術書を読んでいて私であるが、突然、前回の間違い個所に気がついた。なかなか気づかない場所だ。これは大きい。もし同じ問題が出ていたら確実に失点している。危ねえ～。同じ問題が出れば3点ほど拾えたことになる。

前回の出張では九州営業所のメンバーからカンガルーのキン マ袋でできたポーチを5タマ頼まれたが、今回はそのようなこともなく淡々と出張に行ってくるつもりである。公費での出張とは厳しいものなのである。

ところで厳しいと言えは皆さんは「**厳か**」はどのように読むかご存知だろうか。答えはもちろん「**おごそか**」なのであるが、九州の人間にこの問題を出すと、ほとんどの人間が

「**きびしか**」

と答える。方言のわけ、ねえだろ。

自分で「おごそか」と解っている時にパソコンで変換すれば何の問題もなく「**厳か**」になるが、逆は難しい。まったく、パソコンの文字変換には助けられる。ただ、変換ミスには注意したい。様々な変換ミスマールの報告が上がっているが、私の記憶に残った一例は、タイプミスも絡んであるのだが

「詳細な報告書をありがとうございました」

を

「笑止な報告書をありがとうございました」

というものである。これは詳細な報告書を送った相手に最悪の返信であろう。

<機内にて>

約9時間の長旅であるが、今回はビジネスクラスなので楽チンである。君たちは、ワインリストでワインを選んだりするような高級な食事をしたことがあるだろうか。いや、決してないはずだ。私だってないからだ。ところが、ビジネスクラスの夕食では、なんとワインリストをキャビンアテンダントさんが持ってくるのである。

「兵頭様、本日はどのようなワインにいたしましょうか」

などといわれてしまっても困ったものである。選ぶような知識も舌も持ち合わせていない。

「いやあ、そうですねえ。今日は少し甘めのものを飲もうかな」

などと、全然わかって無いくせに、そういうことを誤魔化すのは得意なのである。すかさず

「では、この××年物の××などがお口に合うと思います」

などと言ってくれる。もちろん、味の違いはわかるわけもない。

ところで、ビジネスクラスというのは結構込み合うものである。私はその中でも、足を伸ばせるシートを確保し、なおかつ、隣をブロックしてもらっている。わがままは言ったもんが勝ちである。今回も、一番前の席（足を伸ばせる）で隣をブロックした。これで誰にも邪魔されずに機内で勉強することができる。トイレに立つ人たちからも覗かれることもない。

機内では勉強をしようと思っていたので、厳選したワインであるが残念ながらあまり飲むことはせずに勉強に専念した。まあ、メルシャンワインとの違いもわからない私には特に惜しいとかそういう感情は湧かないが。

機内での映画で「ラストサムライ」をやっていたようであるが、そのような誘惑に負けていては試験には合格しないものである。が、代わりに「ミッシングリバー」の誘惑に負けてしまってそちらを1本見きってしまった。

飛行機の中でできる勉強には限界があるので、実はきちんと寝て行けた方がずっといいのである。幸いにも5時間くらいは寝ただろうか、朝の飲み物が来るまで完全に熟睡していたようである。私は念のため、寝れない事態にも備えて睡眠薬を持ち込んでいる。友人の医者から処方してもらったハルシオンである。正確には睡眠導入剤か。

なお、出張記ではできる限り長嶋監督ネタを披露する方針ではあったが、監督がこのようなご事態にある中、自粛しようと思う。もしも長嶋監督にもしものことがあれば、多分、日本という国はかなりの確立で滅びると思う。現在の日本を支えている40~50代のサラリーマンは皆、長嶋に支えられて青春を過ごしてきた。そのような世代のサラリーマンの挨拶はいつも、前日の長嶋のプレーだったと聞く。いくら長嶋が、入団当時に川上に車を借りてパーキングブレーキを引きっぱなしで走りきって

「川上さんの車って20キロ以上スピードが出ないんですね。」

などという、全くとぼけたエピソードの持ち主だとは言え、彼らにとって（もちろん私にとっても）全てを超越した存在であったはずだ。回復を心よりお祈りしたい。

到着は現地時間の朝8時の予定である。わずかに遅れて無事到着である。

< 4月14日（水） >

無事着陸。入国審査へと進む。いつものように私は「さとうのご飯」を持ち込んでいる。オーストラリアは食べ物の持込には大変厳しい国である。申告すれば問題の無いものでも黙って通過しようとしてバ

れてしまったら、罰金や最悪の場合は投獄されることもある。特に問題なく検疫を通過する。正直に言えば問題無いのである。

前回、さとうのご飯をここまで宣伝していることで、製造元の佐藤食品（新潟）さんに注意を促したつもりであった。オレをサポートしてくれと。ところがその後も何もお礼を言ってこない。こちらからコンタクトしてみようかと思っている。



タクシーでホテルに向かう。今回は間違えることもなく、到着する。すかさずメールチェックする。ふむふむ、

私は試験での出張時には2回しか外出しない。水を買いに行く時と試験に向かう時だ。今回はすぐにセブンイレブンに買出しに行き、水とファンタオレンジとプリングルスを買う。海外ではエグイお菓子ばかりで食べる気がしないが、このプリングルスだけは別格である。



最近、九州営業所ではお菓子がブームである。エースクラスのお菓子ばかりが登場し困っているくらいである。

- ・ハッピーターン
- ・どんど揚げ

・おにぎりせんべい

などなど。特におにぎりせんべいなどは技術革新が著しい。まだ、おにぎりせんべいが固くてすぐに湿気ていた頃しか記憶の無い方は是非とも購入することをお奨めする。最近のおにぎりせんべいはさくさくしていて、しかも簡単に湿気たりしない。勤勉な日本人が技術を結集して作ったお菓子はこれほどまでに素晴らしいという良い例である。

飛行機で寝ていたとはいえ、やはり眠いので昼過ぎまで寝ることにした。おやすみなさい。

14時くらいから勉強を開始して22時くらいまでびっしり勉強した。翌日は朝の5時半に起きる予定なので、早めに寝ることにしよう。

< 4月15日(木)試験当日 >

朝、5時半過ぎに起床したが、またもや頭が痛い。うーん。。

すぐにバファリンを飲んで、何とか起きだした。最後のチェックをして8時にホテルを出て会場に向かう。



今回の受験者は私ともうひとりである。インド系の人だろうか。R&Sの受験者だ。プロクタ(試験官)はいつもと同じである。

簡単に本人確認をして試験開始だ。試験は8時間の長丁場になる。その間はランチの時間を除いてほとんど休むヒマは無い。

シスコとは試験の前に守秘義務契約を結んでいるので、試験内容には触れることはできないのはいつもの事だ。が、今回は正直、問題を見た瞬間に「もうダメだ」と思った。

こんなに新しくなるなんて。。

絶句である。。

もちろん、事前に「この範囲から出る」と言われている中からの出題ではあるが、シスコさんもこんなエグイ問題を出すなんて。。

とにかくもう不合格は許されないので何とか頑張ることにした。

あっという間にランチの時間。

いつものようにプロクタといろんな話をしながら食事をする。実はこのプロクタ、最近になって本を出版したのである。もちろん私はそれを購入して猛勉強した。

「私はあなたの本を購入しましたよ」

「オーっ、それはナイスな選択だ。7つのラボが載っていたと思うが、どれをやってみたのか？」

などと聞いてくるので

「ん？ もちろん全部やりましたよ。」

と答えるとビックリしていた。

お前、勤勉な日本人をなめるなよ。必死になればどれだけの勉強をすると思ってるんだ。お前の本を手に入れて以来、約3週間の間はずっと勉強しているんだぞ。

午後がスタート。解らないところは解らない。試験中はプロクタに質問することを許されている。設問には曖昧な表現（もちろん英語だが）が多く書かれているので、それを確認するためだ。わからない箇所を何とか聞き出そうと様々な角度から質問を試みる。場合によってはプロクタの答え方から解答がわかることもある。今回も10回以上は質問で席を立っただろうか。

ある箇所について

「えーっと、この設問のソリューションはxxxxだと思うが、パケットをDropするmodeを文中から判断できない。どういうmodeを選んだらいいのか」

という質問をし、xxxx部分が正しいのかどうかを聞きだそうとしたが、プロクタはニヤッと笑って私を小突いてきた。ちょっとストレート過ぎたか。

時間が過ぎていき、タイムアップ。プロクタに

「もう二度を来るんじゃないぞ」

などをいじわるをいわれたが、とりあえずホテルに戻った。感触は微妙である。また来てしまうかもしれない。

あとは夜まで必死に覚えている問題をまとめることにする。もちろんまとめた問題を他人に見せることはない。そういう守秘義務契約を結んでいるのだから。すぐに0時になってしまった。ああ、もう寝たいが、実はまだやることがあるのである。

実はこの試験に合格しようとしまいと次なる試験が待っているのである。テレフォニー系の資格の更新である。これまた難しい。取得した際には、学科で一番難関だと記憶がある。なので、日本に帰り着くまでに読むドキュメントを持ち込んできているのである。とほほ、、となりながら明け方までそれらのドキュメントを読んでいた。

< 4月16日(金) >

朝の6時に起床し、準備する。合否を伝えるメールを確認するがまだ来ていないようだ。感触が微妙なだけに気になるが。。

7時にチェックアウトし、呼んでもらったタクシーで空港に向かう。いつもとは違いかなり渋滞している。サマータイムが終わっているため、この時間は通勤時間なんだろうか？
でもそれだったらサマータイムの意味がないだろ？

空港に到着。早速チェックインする。すでに大勢の一般客が列を作って並んでいる。なお、私は一般客ではない。選ばれた人間である。エグゼクティブカウンターで並ばずに手続きする。事前のリクエストでビジネスクラスのEXITシートで、かつ、隣をブロックするように頼んでおいたのだが、今日は満席とのこと。残念ながら隣が既にチェックインしているようだ。チッ。

私の観察では、エグゼクティブカウンターでチェックインする人たち(すなわちグローバル会員、ビジネスクラス、ファーストクラス)には、以下の方々が多い気がする。

- ・黒のタートルネックに麻のジャケットの中年(楽天の社長風)
- ・外人の老夫婦

いかにも、という感じなのであるが、私などは普通の汚い格好である。以前、成田のJALのカウンターでエコノミーのチェックインに回されそうになったくらいに貧乏くさく見えるようである。延々とエコノミーに並んでいるおっさんが、私の方を睨んで

「おいおい、お前はそっちじゃないぞ。こっちに並ばんかい」

みたいな視線でずっと見ている。ヤな感じ。

今日は福岡に移動する予定はないのであるが、

「福岡便に乗り継ぐので FastConnection のタグを付けてくれ」

とウソをついてお願いした。相変わらず、わがままは言ったもんが勝ちの原理である。

出国手続きも特に問題もなく、JAL グローバルラウンジに向かった。早速メールチェックするが、まだ来ていない。

うーん。。。焦るなあ。。。。

ちなみに国内外のグローバルラウンジでは、アナログ回線ではあるが自由に発信をすることができる。

私は仕事での出張の際にはお土産を買わない。会社にも家族にも買わない。なぜなら仕事だからである。前は特にお願いされてキン マを買ったが、今回はラウンジで次に受験予定のテレフォニーの勉強をしていた。

猛搭乗手続きが始まるというところでメールチェックすると合否メールがきていた。恐る恐る見てみると、なんと不合格。あれほど勉強してもダメか。。。。

すぐに O 事業部長に不合格の旨を伝え、丁重にお詫びをした。正直、これ以上挑戦しても無理な気がするが。。。。

事業部長からは、次の CCIE を優先するように指示が出ているため公費での挑戦は最後である。だが私は諦めない。5月の下旬に再度、自費での挑戦をする予定だ。50万円ほどの手出しになるが、仕方あるまい。自分への投資と思えば特に惜しくもない。スキルアップして給料で取り戻せばいいのである。



既に週末の土日は福岡オフィスの兵頭 Lab で勉強中である。必ず合格したい。諦めるなら初めから挑戦していない。挑戦する際にはそれなりの覚悟を持って臨んだつもりである。

MDCである。モチベーションを高く、生活の全てを注ぎ込み、そして達成するまで決して諦めない。

合格できた時、資格を取ったとかそういうことより何よりも、人を凌駕するセキュリティの知識を身に付けているはずである。

オレは負けない。